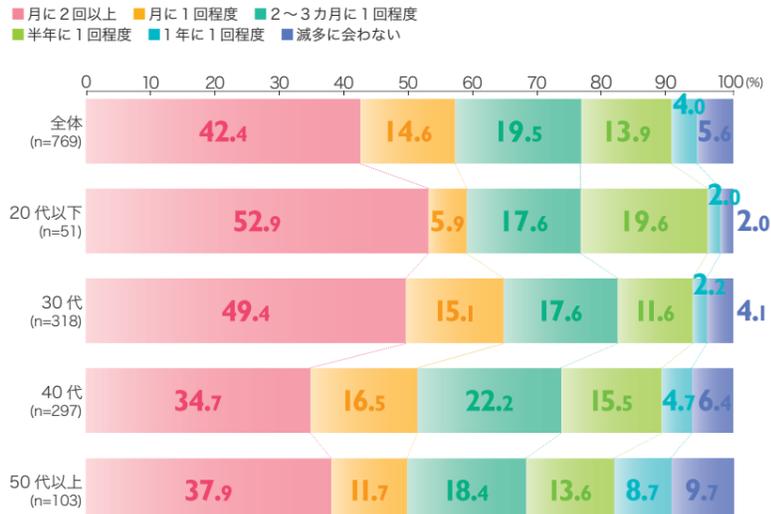


実家には、つい甘えちゃうんです

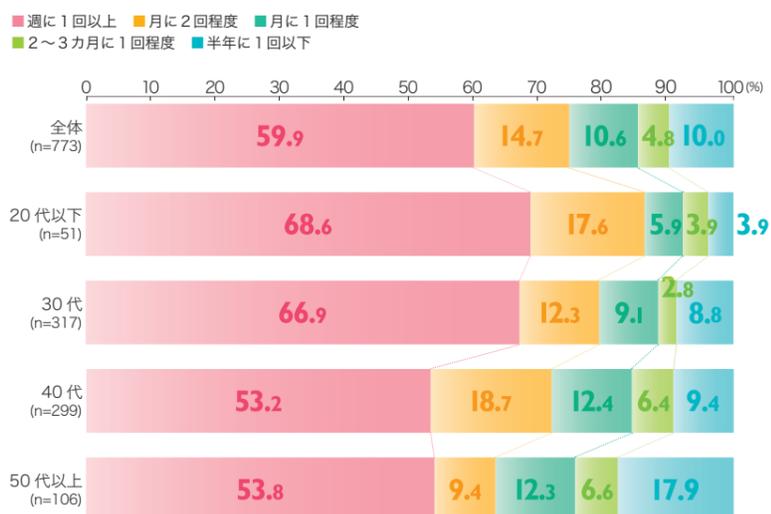
# 母と娘の絆は強し！ 妻方3世代のコミュニケーション実態

友達母娘、一卵性母娘などと言われM&D (Mother & Daughter)消費が注目されて久しいが、いまやそこに、「孫」という強力なフックが加わった。母・娘、そして孫、お互いに遠慮なく相談しあえて共感できる、密度の濃いコミュニケーション実態が明らかに。

## 自分の母親とはどのくらいの頻度で顔を合わせていますか？



## 自分の母親と、電話やメールはどのくらいの頻度でしていますか？



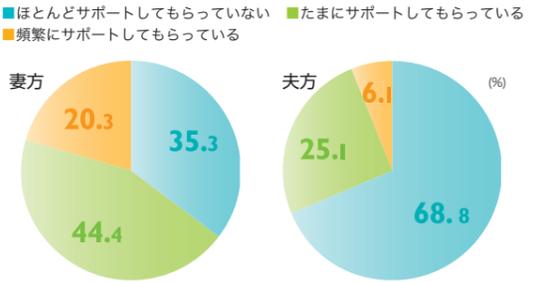
## 実の母とは、月2回以上会っている娘が半数近く 電話・メールにいたっては、週に1回以上が約6割

自分の母親と顔を合わせる頻度を聞いたところ、20代、30代は月2回以上が半数前後。中でも20代は、ほぼ毎日が25.5%、4人に1人という親密ぶり。30代、40代といったん会う頻度が減る傾向にあるが、50代以上になると、親の高齢化に伴って、再び顔を合わせる頻度が増える。  
また、電話やメールをする頻度は、全体では、週に1回以上が6割近く。“ほぼ毎日”という人は、20代で29.4%、30代でも21.8%、活発なコミュニケーションぶりがうかがえる。

## 妻方祖父母と月2回以上会っている孫は43.7%

祖父母と孫が会っている頻度を、小学生以下の子どもがいるかいないかに分け、さらに妻方・夫方に分けたのが、左のグラフだ。孫が小学生以下と比較的小さいほうが祖父母と会う機会が多く、しかも妻方の方が頻度は多い。ただし、“1年に1回程度”は、夫方が妻方の3倍以上。妻方の実家とは日ごとの行き来が多く、夫方の実家にはお盆や正月などの節目に顔を出す、ということだろう。孫が中学生以上になると祖父母と会う頻度はぐっと少なくなるが、2~3カ月に1回程度以上を合わせると、妻方57%、夫方37.1%と、やはり妻方実家との行き来が多い。

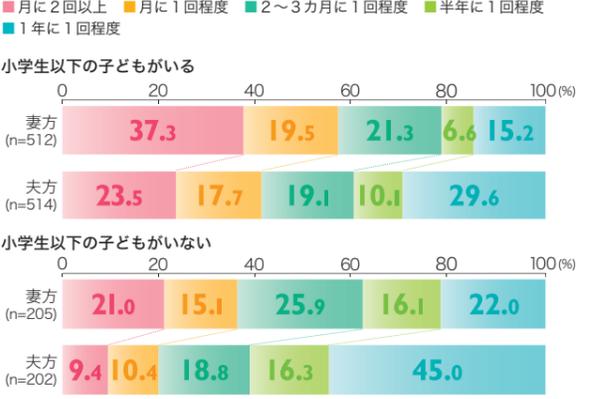
## 実家に子育てをサポートしてもらっているか



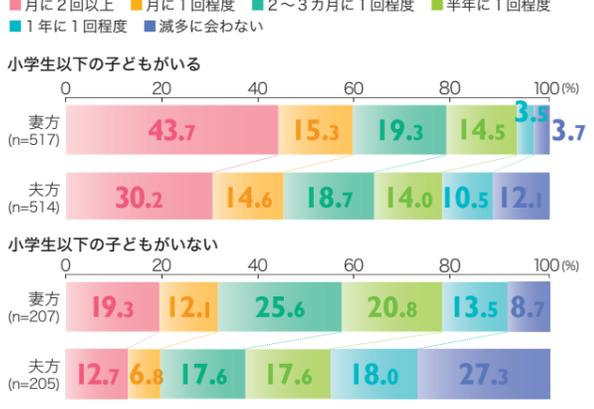
## 孫をダシに、実家で食事 夫方の実家には遠慮が働く？

外食とは別に、実家に食事に行く頻度を聞いた。やはり小学生以下の子どもがいる家庭の方が頻度は多く、“月2回以上食事に行く”が妻方実家37.3%に対し、夫方実家へは23.5%。「ほとんど行かない」は、子どもの年齢にかかわらず、夫方は妻方の倍近い。孫をダシにするとはいえ、母親の手作り料理をご馳走になるのは、やはり自分の実家が気楽。夫方実家には遠慮が働くのだろう。

## 親(祖父母)の家に、食事に行く頻度はどのくらいですか？



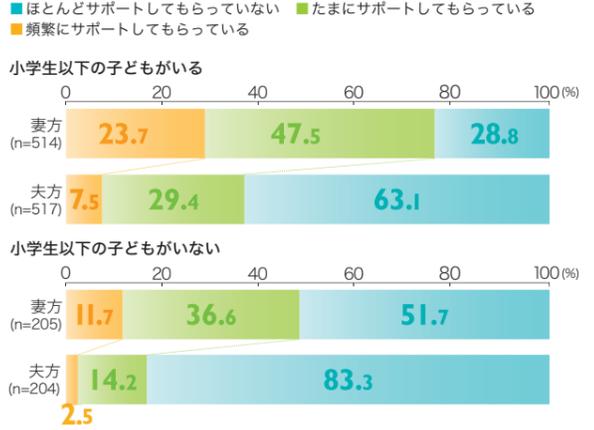
## 孫と親(祖父母)は、どのくらいの頻度で会っていますか？



## 子育ての強力サポーター、ジイジとバアバ頼りにするのは実家の母

子育てを、妻方の実家に“頻繁にサポートしてもらっている”“たまにサポートしてもらっている”人は、全体で64.7%。対して夫方の実家にサポートしてもらっているのは、“頻繁に”“たまに”を合わせて31.2%と半分以下。  
特に、小学生以下の子どもがいる家庭では、妻方実家のサポートが実に7割を超えている。

## 妻方の親、夫方の親、それぞれ子育てをどのくらいサポートしてもらっていますか？



**HOW's View**  
「新3世代型の生活構造」で母娘は同居と変わらぬコミュニケーション

このページは娘側へのアンケート結果だが、別の調査で60代の母親側60人に生活行動日記をつけてもらったときは、ほぼ毎日娘とメールしている人が8割に上った。内容はほとんどリアルタイムの位置確認。つまり「今から行くからね」とか「今ここにいるならコレを買ってきて」といった同居同様のコミュニケーション。あまりにも日常的で無意識なので、定量調査だけではなかなか出てこないが、団塊母娘の心の近さを見誤ってはいけない。

【調査概要】  
調査期間 2012年10月18日~23日  
調査方法 WEBアンケート調査  
全国の女性 769人  
有効回答 5p~7pはその内、子どもがいる女性735人を集計  
※各グラフのn数の差は不明回答によるもの  
※各データは少数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならないことがある